

てくところ信州 ～めぐって学ぼう自然と災害～

田中萌¹ 原山心莉²

¹長野県長野高校 天文・地球科学班

Tekutoko Shinsyu ～Let's learn about climate change and natural disasters by walking～

Moyu TANAKA¹, Kokori HARAYAMA²

¹ Club of Astronomy Earth Science, Nagano Prefectural Nagano Senior High School

1. これまでの活動

- ・定期的な天体観測
- ・第42回全国高等学校総合文化祭での入笠山巡検の解説
- ・地学教育に関するアンケート（長野県内の小中学校へ）
- ・氷河時代たんけん隊（野尻湖発掘調査団・野尻湖ナウマンゾウ博物館主催）の企画、参加
- ・信大主催の地学に関するイベントへの参加
- ・長野市活断層ウォーク（信州大学理学部主催）での解説

2. 活動から感じた問題点

上記のような活動を行う中で、自分たちの暮らしているすぐ近くに断層の活動や地震の被害の名残りが見て取れる場所があると知り、地震やそれに伴う災害が起こりうるということを身近に感じた。また、実際に自分たちの足で歩いて見て回ることによって、地形の変化やその成り立ちを体感しながら学ぶことができ、ただ机の上だけで学ぶよりも理解しやすく興味もわきやすいと感じた。

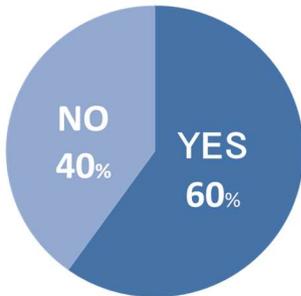
その中で、災害が起こるリスクに比べて、人々の防災意識や住んでいる地域の地学的な知識が不足しているという問題点を見つけた。

しかし、大人が新たに災害・防災について興味を持つことは難しい。そのため、子どもの内に興味を持つような働きかけが大切だと考えた。どのような活動をする子どもが興味を持つのか、これまでの活動をもとに考えた。

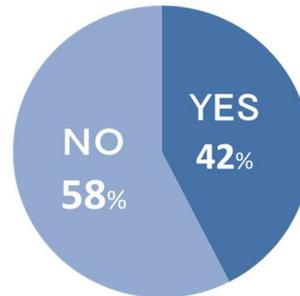
3. 活動から考えられること

(1) 地学教育に関するアンケート結果 2018 年度実施

災害・防災について
興味があるか



地質・災害についての
巡検に参加したいか



長野県内の小学 5 年生 125 人, 中学 2 年生 675 人, 計 810 人

上のグラフから、災害や防災に興味がある人の割合に対して、巡検に参加したいという人の割合が低いことが読み取れる。つまり災害・防災に興味があっても巡検には参加したくないという人が一定数いるということだ。この理由について、それまでの中学校教育の中で巡検やそれに類する活動をしていても、それらに参加した意味が分かっていなかったり、楽しくなかったと感じていたりするのではないかと考えた。

(2) 活断層ウォーク 2019/11/3 実施

まちの中を歩いて、地形や地震の被害の名残りを見て回る。地形の変化がわかりやすく、地震やその被害が身近に感じられた。

しかし、「活断層」「災害」などの言葉が前面にあり、事前の申し込み制で、歩いて説明を聞くだけのイベントであったため、

- ・もともと興味のない人は参加しない。
 - ・子どもがあまり参加しない
 - ・説明が専門的でわかりにくい。
 - ・参加者が受け身になっている。
- などの問題点が見られた。



主催：信州大学理学部

場所：長野高等学校、善光寺周辺

案内者：長野高校の生徒、教職員

4. 子どもが災害・防災に興味を持つようなイベント案

地学教育に関するアンケート結果から、巡検は子供に楽しいと考えられていないことが分かったが、巡検は自分で体感・体験することが出来るので印象に残りやすいという利点がある。そこで、多くの人に巡検に参加してもらうために必要な要素とは何か考えた。

まず、活断層ウォークでは、事前の申し込みが必要であったため参加者があまり集まらなかったことから、イベントに参加しやすくするための工夫が必要であると考えた。

次に、より多くの人に参加してもらうためには興味のない人にも参加してもらうことが大切であると考えた。イベント名に「防災」、「災害」という言葉が使われていることが多いが、これらの言葉を強調しすぎないことでイベントに興味を持ってもらいやすくなると考えられる。

また、興味のない人に災害や防災について興味を持ってもらうために、意識しなくても災害や防災についての情報に触れるような機会を作ることも有効ではないかと考えた。

参加しやすいイベント

- ・他のイベントと同時に開催する。
- ・申し込み不要で、誰でも参加できるようにする。
- ・定期的で開催する。
- ・1日に数回行い、いつでも参加できるようにする。
- ・参加者プレゼント（非常食など、災害や防災に関係するもの）を出す。
- ・非常食の料理教室を開くなどして、関心を集める。

楽しく、分かりやすいイベント

- ・参加者が主体的に取り組める。
- ・模型、図、写真などを駆使する。
- ・視覚的に理解しやすい(CG, VR)。
- ・開催地域の地学的な特徴を紹介。
- ・クイズやスタンプラリーを行う。

意識せずに情報に触れられる取り組み

- ・公共交通機関のアナウンスで、災害や防災についての情報を流す。
(例) 過去の地震での被害、その地域で予想される災害の被害について
- ・駅や繁華街のモニターや掲示板に情報を載せる。
- ・ポケモンGOのポケモンが出没するスポットを、地形の変化や災害の被害がわかる場所に設定する。

5. まとめ

災害・防災に関する楽しいイベントを開くなど、意識しなくてもこれらの情報に触れる機会を作ることで、元々興味のなかった人も興味を持つようになると考えられる。また、子どもに興味を持ってもらうことができれば、親や友人にも災害や防災についての情報が伝わり、さらに多くの人に興味をもってもらえると考えられる。

6. 今後やっていきたいこと

- ・子どもが参加しやすく、わかりやすいイベントを自分たちで企画し、実行してみる。
- ・防災に関するアンケート調査を行う。
- ・自分たちの知識を増やす。